みんなで推進
いわて教育の日
情報紙
第44号
（通巻）

発行「いわて教育の日」推進協議会
代表　吉川健次

事務局 〒020-0667 滝沢市鵜飼向新田７-232
TEL･FAX 019－684－4341



今後の十年間に向けて

「いわて教育の日」推進協議会
会長　吉川健次

平成十七年四月一日に設立された「いわて教育の日」。岩手県は、次代を担う豊かな人間性を備えた子どもを育成するため、県民一人ひとりが教育の重要性を認識し、本県における教育のあり方を考える契機として「いわて教育の日」を設けております。推進協議会は、昨年度、節目となる設立二十周年を迎えました。その記念の一環として、「設立二十周年記念誌」を発刊いたしました。

その内容は、平成二十七年の「設立十周年記念誌」発刊からの後の十年間の歴史を顧み、その活動を記録して、尽力された各位に感謝するとともに、本会の更なる充実と発展を図るための資料とすべく編纂したものであります。推進協議会のこれまで発行してきた情報紙に見る啓発活動の実践など、本会が行った活動、実践の状況をできるだけ詳しく紹介することができました。

令和八年六月八日、「いわて教育の日」推進協議会の構成員全体会議において、十年後も記念誌を作ることを提案し、快諾されました。昨今の諸物価の高騰により、印刷代等を増額しての計画を作成しました。役員会議や構成員全体会議を同一日に時間をずらして開催するなどの工夫をしながら作成費の捻出をしましたが、今後、会員数を増加させる方策を考えて行かなければなりません。「いわて教育の日」の設立趣旨を広く浸透させるべく、未加入の各団体にも呼びかけていきたいと思います。

また、今年の「いわて教育の日」のつどいは、十一月九日（月）、トーサイクラシックホール（岩手県民会館）で開催されますので、県民の皆様、挙ってご参加をお願いいたします。

ところで、全国連合退職校長会の年間紀要（令和八年三月三十一日発行）によると、「教育の日」を制定する都道府県や市町村の数は、三十九都道府県、百十市、八十七町、二十四村、一区であります。制定されている都道府県において、その行事の主なものは、記念講演、シンポジウム、パネルディスカッションなどです。

岩手県の市町村で「教育の日」を設置しているところはありませんが、岩手県のホームページには、県内の学校や関連施設の令和七年度「いわて教育の日」関連事業が一覧表として、掲載されておりますので、紹介いたします。一ページに十～二十行事が三十ページにわたって、行事の概要や開催日、会場等の項目で、市町村毎に載っており、その行事名を見てみると、地区集会、学校へ行こう週間、文化祭、学習発表会、授業参観、マラソン大会、企画展、こども映画会、みんなの本棚、土曜わくわくタイム、本のリサイクル広場、防災キャンプ、わらたねフェスなど興味あふれる行事が載っており、皆様にご来場いただけると、主催者の励みにもなりますので、ご参加いただければと思います。

最後に、推進協議会の事務局を担当している岩手県公立学校退職校長会のホームページには、「いわて教育の日」の「設立二十周年記念誌」と昨年の「情報紙」を掲載しておりますので、ご覧いただければ幸いです。

令和八年度「いわて教育の日」推進協議会構成員全体会議は、六月八日（月）サンセール盛岡にて、御来賓、構成団体の代表、役員など三十五名が出席して開催されました。

吉川健次会長の挨拶の中で、今年度は「いわて教育の日」が制定されて二十一年目であり、設立三十年にむけて、今後の十年間を見据えて岩手県とも連携を図りながら対応していきたい決意が述べられました。続いて岩手県教育委員会教育長佐藤一男様から御祝辞を頂き、岩手県中学校校長会米慎司会長が議長となり会議に入りました。

提出された議案は後述の四議案でしたが、いずれも原案通り承認されました。



令和八年度「いわて教育の日」推進協議会
構成員全体会議　開催される
六月八日（月）サンセール盛岡

提出議案

第一号　令和七年度会務・事業報告並びに収支決算について

第二号　令和八年度事業計画案並びに収支予算案について

第三号　規約改正について

「会長・副会長・監事は役員の互選とする」を削除し、役員は全て構成員会議において選出することとした。

第四号　令和七・八年度役員について

令和八年度事業について

基本方針

本推進協議会は、「いわて教育の日に関する条例」に基づき行う活動の推進に協力し、本県における教育の充実と発展に資する活動を行うことにある。そのために、各構成団体と学校・家庭及び地域社会が連携し、様々な機会をとらえて次代を担う豊かな人間性を備えた子どもの育成を図ろうとする教育尊重の機運を高めるような活動を行う。

事業推進計画

一「いわて教育の日」の啓発・普及

本会の各構成団体は、様々な機会をとらえて、「いわて教育の日」や「いわて教育週間」の趣旨が広く県民に浸透するように努める。

「いわて教育の日」十一月一日（日）

「いわて教育の日週間」

十一月一日（日）～七日（土）

「いわて教育の日」のつどい

十一月九日（月）

二　情報紙による啓発

・情報紙を年二回発行する。

第四十四号（十月一日発行）

第四十五号（令和九年一月一日発行）

「いわて教育の日」のつどいの概要、参加者の声など

三「いわて教育の日」のつどいへの推進協力

・概要については六頁下段参照

四　設立三十周年記念事業

・十年後には設立三十周年記念誌が発刊できるよう年間三万円の積立金の確保に努め三十万円を積み立てる。

五　令和八年度収支予算

・下段記載の通り。

六　令和八年度会費

・団体　年額五千円

七　令和八年度役員

・次頁下段記載の通り。

令和８年度　一般会計収支予算

１　収入の部

《単位：円》

項　目	本年度予算額	前年度予算額	増　減	付　記
1 会　費	230,000	235,000	△ 5,000	団体5,000円×46団体
2 寄付金	150,000	150,000	0	公益財団法人日本教育公務員弘済会岩手支部(100,000) 岩手県公立学校退職校長会(50,000)
3 繰越金	104,587	99,918	4,669	
4 雑収入	3	1	2	利子
計	484,590	484,919	△ 329	

２　支出の部

《単位：円》

項　目	本年度予算額	前年度予算額	増　減	付　記
1 通信費	28,000	28,000	0	郵券、郵送料など
2 需用費	30,000	30,000	0	用紙、資料印刷、インク代等
3 会議費	95,000	100,000	△ 5,000	会議室使用料等
4 事業費	270,000	275,000	△ 5,000	情報紙44号45号印刷発送他
5 事務執行費	30,000	30,000	0	事務局長事務局次長手当
6 雑　費	1,000	1,000	0	
7 基金積立	30,000	20,000	10,000	周年事業等
8 予備費	590	919	△ 329	
計	484,590	484,919	△ 329	

令和８年度　基金積立予算

令和７年度	残　金	３６０円
令和８年度	積立金	３０，０００円
	合　計	３０，３６０円

来賓祝辞

令和八年度の教育行政の推進について

岩手県教育委員会
教育長　佐藤一男　様
（代読）
教育局長　松村達　様



令和八年度「いわて教育の日」推進協議会構成員全体会議の開催に当たり、一言御挨拶申し上げます。

皆様方には、「いわて教育の日」の制定やその普及啓発、本県教育の充実と発展に御尽力いただいているところであり、心から感謝申し上げます。

東日本大震災津波から十五年が経過しましたが、児童生徒の心のサポートや震災の教訓の次世代への継承など、中長期的に取り組んでいかなければならない多くの教育課題があります。岩手県教育委員会として、引き続き、児童生徒一人ひとりに寄り添った支援に取り組むとともに、「いわての復興教育」の一層の推進に取り組んで参ります。

さて、今年度は、「岩手県教育振興計画（２０２４～２０２８）」や「いわて特別支援教育推進プラン（２０２４～２０２８）」、「岩手県教職員働き方改革プラン（２０２４～２０２６）」など、教育の振興に関する取組の大きな柱となる計画の中間年にあります。これらの計画や「いわて県民計画（２０１９～２０２８）」のもと、学校教育と社会教育・家庭教育の二つの政策分野を柱として、本県の未来を創造する人づくりに取り組んで参ります。

昨今、生成ＡＩを始めとするデジタル技術が急速に発展し、教育を取り巻く環境は大きく変化しています。こうした技術は、子どもたち一人ひとりの可能性を広げる有効な手段です。

一方で、どれほど技術が進展しても、「人が人を育てる」という教育の本質が変わるものではありません。子どもたちが他者との関わりの中で学び、思いやりの心や社会性を育みながら、主体的に未来を切り拓いていく力を身に付けていくことが求められています。

こうした中、「いわて教育の日」が掲げる「学校、家庭及び地域社会が連携して、次代を担う豊かな人間性を備えた子どもを育成する」という理念のもと、学校、家庭、地域、行政が一体となって考え、実践していくことが、極めて重要です。

本年度の「いわて教育の日」のつどいは、十一月九日にトーサイクラシックホール岩手での開催を予定しております。皆様方に引き続き御協力をいただきながら、県民一人ひとりが本県の教育の在り方をしっかりと考える機会にして参りたいと考えております。

結びに、皆様方には、本県教育の充実と発展のため、なお一層の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今後益々の御健勝、御活躍を祈念いたしまして、御挨拶とさせていただきます。

令和八年度「いわて教育の日」推進協議会役員

会長	吉川健次	岩手県公立学校退職校長会会長
副会長	千葉茂樹	社会福祉法人岩手県社会福祉協議会会長
〃	久慈孝	岩手県社会教育連絡協議会会長
〃	山下泰幸	一般社団法人岩手県ＰＴＡ連合会会長
監事	三浦保治	岩手県子ども会育成連合会会長
〃	川村祥平	日本教育会岩手県支部支部長
委員	館澤敏子	特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会会長
〃	太田代政男	岩手県退職公務員連盟会長
〃	千葉仁一	盛岡市教育振興推進委員会会長
〃	後藤敏信	岩手県国公立幼稚園・こども園協議会会長
〃	小田島順造	一般社団法人岩手県私学協会会長
〃	金野治	岩手県小学校長会会長
〃	米慎司	岩手県中学校長会会長
〃	中村智和	岩手県高等学校長協会会長
〃	佐藤工	岩手県教職員組合中央執行委員長
〃	村上智加子	岩手県高等学校教職員組合執行委員長
〃	遠藤洋一	岩手県高等学校長協会退職校長会会長
〃	多田英史	岩手県市町村教育委員会協議会会長

事務局

担当：岩手県公立学校退職校長会

事務局長	熊谷雅英
事務局次長	佐藤精晋
事務局員	熊谷幸一
	篠田宜道
	舘澤卓宏
	大西洋悦
	平政光
	小笠原章
	鳥羽真喜子

構成団体から「いわて教育の日」に寄せて

「つながり」と「学びあい」を深め教職員のより良い範となって

岩手県小学校長会
会長　**金野　治**



岩手県小学校長会では、今年度も会員同士の「つながり」と「学び合い」をより大事に取り組んでおります。

十月九日に開催する第六十回岩手県小・中学校長研究大会和賀大会は、その「つながり」と「学び合い」が一層深まる、校長最大の学びの場です。効果的な実践事例の共有を通じて、各地区・学校が直面する課題解決に資するとともに、新たな時代に相応しい学校教育の在り方を共に考え、確かな一歩を踏み出す契機とします。

また、様々な会議や研修会においても、互いの思いや教育観、学校経営の実践を語り合い、確かな判断力と決断力にもつなげております。

校長自身が積極的な学びの姿を示し、他の教職員のより良い範となり、創意と活力に満ちた職場づくりをより一層推し進めてまいります。

「秀なる知見、先見の明」「毅なるゆるがない信念、行動力」をもち、一枚岩となった校長会を目指して

岩手県中学校長会
会長　**米　慎司**



現代は将来の予測が極めて困難な時代であり、子どもたちがたくましく生き抜くために必要な資質・能力を育成することが重要です。大槌町の山林火災をはじめ自然災害が多発する中、災害に対し能動的に対応し、自他の命を守る力を育むため、復興教育や防災教育の充実を一層図っていかなければならないと考えています。

また、子どもたちは未来への夢や希望を抱きながら成長しています。「わからないことがわかった」「できないことができた」「頑張りなどが認められた」という喜びは、生徒の成長を支える大きな力であり、私たち教職員の喜びでもあります。そのためには、教職員が互いに支え合い、心にゆとりをもって働くことができる職場づくりが欠かせないと考えています。

今後も県中学校長会として、諸課題に真摯に向き合い、本件の施策を推進しながら、「秀なる知見、先見の明」「毅なるゆるがない信念、行動力」をもって、「チーム岩手・一枚岩」となり、子どもたちの幸せと教職員のやりがいを実感できる魅力ある学校づくりを推進してまいります。

児童生徒の学びを支えるみなさまのサポーターとして

日本教育会岩手県支部
会長　**川村祥平**



日本教育会は、全国の幼・小・中・高・特別支援学校、教育行政機関の現職退職教職員、ＰＴＡ等、広く教育に関心のある方々を会員とする教育研修団体です。

今日、著しく変化する現代社会の中で、子どもたちの個性化・多様化はより一層進み、また、ＡＩ・デジタル技術の急激な進化、情報化社会の急速な発展により、教育研修のニーズが大きく変化しております。

岩手県支部におきましても、こうした変化に伴う本部の事業を支援すると共に、（公財）岩手育英奨学会への助成、各種研修会や事業への助成等を継続的に行うなど、本県教育や学校を取り巻く状況を把握した上で、会員の皆様や学校現場に役立つ事業を進めております。間接的ではありますが、今後とも本県の児童生徒の健やかな学びを支えていけるように努めて参ります。

課題を踏まえて実践を

盛岡市子ども会育成会連絡協議会
会長　**鎌田まき子**



近年子どもを取り巻く社会環境は少子化や価値観の多様化などにより、大きく変化しています。また人間関係の希薄化が進むにつれコミュニケーション不足による問題や課題から「新たな気づき」として、今だからこそ何が出来るか、その中で見えてきた「課題から得た気づき」として子どもたちが意欲的に取り組むことができる学びの場や交流の場、成長の場をなくしてはならないことに改めて気づかされました。

また、子どもの頃に様々な体験活動をすることにより、多様な形での経験がその後の成長にも良い影響を与える「学びの場」でもあることから、これまでの「こうでなければ」という固定観念を改め、子どもを取り巻く環境にも柔軟に対応し「楽しく魅力ある子ども会活動を目指して」をテーマに創意と工夫をこらし活動に取り組んでいます。

日本教育公務員弘済会岩手支部より支部奨励助成金を交付される



公益財団法人日本教育公務員弘済会岩手支部より本会へ十万円の助成金が交付されることになり、六月八日の構成員全体会議の場で、支部長の高橋清之様から吉川健次会長に交付されました。

また、岩手県公立学校退職校長会からも七月十六日、活動推進費五万円が交付されました。

有難うございました。

学校紹介

地域の伝統文化に対する理解と愛情を深め表現力の向上をめざす「子ども語り部」の活動

遠野市立附馬牛小学校　校長　井藤　聡



一　はじめに

遠野市附馬牛地区は「遠野文化発祥の地」とも呼ばれ「遠野物語」の著者柳田國男が遠野を訪れた際には旧附馬牛小学校の教員が柳田を案内したという記録が残っています。

二　子ども語り部の歴史と活動の様子

本校がこの活動に本格的に取り組み始めたのは、平成二十四年「遠野語り部千人プロジェクト」の一環として遠野文化研究センター（当時）が始めた「子ども語り部検定」がきっかけです。総合的な学習の時間の中で三年生が検定に挑戦し四年生は翌年に更にもう一つの「昔語り」に挑戦します。

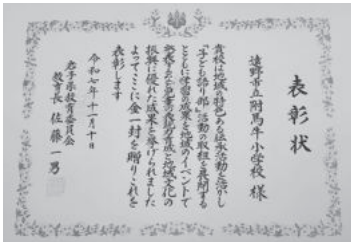
講師として附馬牛地区在住のベテラン語り部さんをお招きし、ご指導いただいています。検定に合格すると、子どもたちは晴れて「子ども語り部認定証」を手にし、語り部デビューを果たします。

三　語り部活動がもたらす成果

本年度、本校の子ども語り部が発表する主な機会は「学習発表会」「創立五十周年記念式典」「遠野昔ばなし祭」「遠野ふるさと村イベント」の四つです。

子どもたちが語るのは基本「短縮版」ですが、一話語るのに五分以上はかかります。暗記するだけでなく「遠野ことば」での表現もあり、簡単ではありません。より良い発表にするにはかなりの努力が必要ですが、子どもたちは地域に伝わる文化に誇りをもち、それを伝えていこうと一生懸命に取り組んでいます。





このような子どもたちの努力が認められ、令和七年度岩手県教育表彰（事業顕著者表彰）をいただくことができました。

四　おわりに

本校の学校教育目標は「郷土の誇りを胸にもち」という文から始まります。子ども語り部の活動は地域文化への理解と愛情を育てることはもちろんですが、豊かな表現力や言語感覚の育成を図るため、今後も本校の重要な活動の一つとして継続していきたいと思います。

地域を学びの場とした教育活動

―高等部理療科の取組―

岩手県立盛岡視覚支援学校　校長　最上一郎



一　はじめに

本校は、視覚に障がいのある子どもたちを対象とした支援学校で、幼稚部から高等部専攻科まで幅広い年代の幼児児童生徒が在籍しています。

高等部専攻科の理療科は、「あん摩・マッサージ・指圧師」「はり師」「きゅう師」の資格を取得するための学習を行っています。

二　東日本大震災被災地域でのマッサージボランティア活動

高等部理療科によるマッサージボランティア活動は、震災のあった平成二十三年の七月から始まり、仮設住宅や災害公営住宅などを訪問して実施し、コロナ禍の二年間を除き毎年継続しています。

令和七年度は七名の生徒が、二十名の地域の方の施術を行いました。施術を受けた方からは「体が軽くなった。」「今年も楽しみにしていた。」等の感謝の言葉をいただきました。生徒からは「授業と違い緊張感があった。やりがいを感じて施術できた。」「震災、防災を考えるきっかけになった。」等の感想が出されました。



この活動により、生徒が被災地の現状を知り、社会に対する視野を広げる貴重な機会となりました。地域の方々とのふれあいを通じ、復興への想いや岩手への愛着を育めていると感じています。また、被災者のために何ができるのかを自ら考え実践したことで、社会的使命感の充実が図られ、学校生活により意欲的に取り組む姿が見られています。

三　他の施設等での訪問マッサージ

このほか、理療科は年に数回、地域の保育園や企業などの施設を訪問し、マッサージの活動も行っています。昨年度も地域の保育園に出向き、保育士や職員の方々にコミュニケーションを図りながら、丹念にマッサージし、肩や腰のこりをほぐしました。

生徒たちは、普段、校内での臨床実習で技術を学んでいます。施設等を訪問しての活動は、一人一人の日頃の学習の成果を発揮できる大事な学びの場となっているとともに、地域の方々にとっては、癒しの時間となっているようです。



四　おわりに

特別支援学校は幼児児童生徒の自立と社会参加を目指して、日々、教育活動を行っています。学校在籍時から、地域とかかわる経験を積み重ねていくことが、目指す姿につながっていくものと考えています。

令和８年度「いわて教育の日」推進協議会　構成団体等一覧

Ｒ８．８.31現在

No.	構成団体	代表者		No.	構成団体	代表者	
1	一般社団法人岩手経済同友会	代表幹事	岩山　徹 畠山　大	24	盛岡市教育振興推進委員会	会長	千葉　仁一
2	岩手県農業協同組合中央会	代表理事会長	伊藤　清孝	25	一般社団法人岩手県ＰＴＡ連合会	会長	山下　泰幸
3	岩手県漁業協同組合連合会	代表理事会長	山崎　義広	26	盛岡市ＰＴＡ連合会	会長	藤田健一郎
4	岩手県商工会議所連合会	会長	谷村　邦久	27	岩手県高等学校ＰＴＡ連合会	会長	岡崎　希裕
5	岩手県商工会連合会	会長	髙橋　富一	28	岩手県私立小中高等学校保護者会	会長	白澤　仁
6	岩手県中小企業団体中央会	会長	小山田周右	29	岩手県国公立幼稚園・こども園ＰＴＡ連絡協議会	会長	内記　裕太
7	公益社団法人日本青年会議所東北地区岩手ブロック協議会	会長	錦山　裕充	30	岩手県国公立幼稚園・こども園協議会	会長	後藤　敏信
8	社会福祉法人岩手県社会福祉協議会	会長	千葉　茂樹	31	岩手県私立幼稚園・認定こども園ＰＴＡ連合会	会長	藤原　沙耶
9	社会福祉法人盛岡市社会福祉協議会	会長	谷藤　裕明	32	一般社団法人岩手県私立幼稚園・認定こども園連合会	会長	今西　界雄
10	盛岡市町内会連合会	会長	四戸　春雄	33	一般社団法人岩手県私学協会	会長	小田島順造
11	岩手県社会教育連絡協議会	会長	久慈　孝	34	岩手県小学校長会	会長	金野　治
12	公益社団法人岩手県青少年育成県民会議	会長	菅野　洋樹	35	盛岡市小学校長会	会長	田代　航
13	岩手県青年団体協議会	会長	松田恵美子	36	岩手県中学校長会	会長	米　慎司
14	特定非営利活動法人岩手県地域婦人団体協議会	会長	館澤　敏子	37	盛岡市中学校長会	会長	星　和子
15	岩手県子ども会育成連合会	会長	三浦　保治	38	岩手県高等学校長協会	会長	中村　智和
16	盛岡市子ども会育成会連絡協議会	会長	鎌田まき子	39	岩手県小中学校副校長会	会長	菅原　修一
17	日本ボーイスカウト岩手連盟	連盟長	南部　利文	40	岩手県高等学校副校長協議会	会長	成田　誠悟
18	公益社団法人岩手県防犯協会連合会	会長	石堂　淳	41	岩手県教職員組合	中央執行委員長	佐藤　工
19	盛岡市防犯協会	会長	内舘　茂	42	岩手県高等学校教職員組合	執行委員長	村上智加子
20	盛岡東地区防犯協会連合会	会長	大畑　正二	43	日本教育会岩手県支部	支部長	川村　祥平
21	岩手県警友会連合会	会長	細田　敬一	44	岩手県高等学校長協会退職校長会	会長	遠藤　洋一
22	岩手県退職公務員連盟	会長	太田代政男	45	岩手県公立学校退職校長会	会長	吉川　健次
23	岩手県退職公務員連盟盛岡支部	支部長	太田代政男	46	岩手県市町村教育委員会協議会	会長	多田　英史

編集後記

情報紙第四十四号を、佐藤一男岩手県教育委員会教育長様はじめ多くの方々からご寄稿いただき発行することができました。有難うございました。感謝申し上げます。

昨年度、「いわて教育の日」が制定されて二十周年ということで、これまでの十年間の活動をまとめた「記念誌」を発刊することができました。十年後も記念誌を発刊できるよう、今後も情報紙の充実に努めて参ります。

令和８年度「いわて教育の日」のつどい

講　　演

子どもを性暴力から守る
～私たち大人ができること・すべきこと～

慶應義塾大学ＳＦＣ研究所上席所員　小笠原　和美　氏

日　　時　令和８年11月９日（月）13時～
会　　場　トーサイクラシックホール岩手（岩手県民会館）中ホール
参加対象者　教育関係者及び県民（約600名）
主　　催　岩手県　岩手県教育委員会
共　　催　県内各市町村（北上市、二戸市を除く）　各市町村教育委員会
「いわて教育の日」推進協議会
後　　援　県内報道各社　北上市　二戸市